

指定校番号	28011	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立竹屋小学校	校長	尾形 慎治	生徒指導主事	里本 孝文
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『竹屋っ子グループ』を用いた集会活動

取組のねらい キーワード『異年齢グループ活動』(異学年交流)

児童が自分たちの学校生活をより良く、そして楽しく向上させようとする意図のもとに、自主性と社会性を養うために、児童相互の関わりの場として、異年齢グループを積極的に活用する。

取組の具体的内容 キーワード『年間を通して』

<竹屋っ子グループ> (縦割りグループ) での活動

- ・全児童を人数や男女比が等しくなるように24のグループに分ける。
- ・年間を通して様々な場面で活用する。

- 6月・・・折り鶴集会
- 7月・・・夏の集会
- 9月・・・クリーン活動
- 12月・・・冬の集会
- 随時・・・体育的集会



<異学年交流>での活動

- ・1・2年の校内探検, おもちゃ祭り
- ・2・3年, 4・5年, 5・6年での学習紹介や引き継ぎ
- ・すずかけ交流会 (1・2年, 3・4年, 5・6年)
 ※「すずかけ」とは毎年作成する全校文集のこと
- ・遠足や運動会



取組の課題・創意工夫**キーワード『グループ作り』**

<課題>

- ・年度当初のグループ作りに手間がかかる。
(児童実態の把握, グループの均等性) 等
- ・グループ数に対して担当者(職員)の不足。
- ・活動場所や順序の計画。

<工夫>

- ・活動前の「事前学習」「ねらいの明確化」、活動後の「振り返り」や「評価」をしっかりと行うことで、さらに効果が上がる。

取組の成果(効果)**キーワード『関わりの中で育つ』**

- ・全校児童が顔見知りになる。
- ・上の学年にとっては、自尊感情が揺さぶられ、自主性やリーダー性が育つ。
- ・下の学年にとっては、上の学年に憧れ、今後の見通しや、学習意欲の向上につながる。
- ・互いを意識し、尊重し、思いやる気持ちが養われる。
- ・地域の行事(三世代交流行事「とんど」「夏祭り」「ハゼ釣り大会」)等にもつながっている。

今後の展開**キーワード『継続と見直し』**

- ・活動が定着していくために、職員が意識統一して引き継ぎ、継続していくことが大切。
- ・マンネリ化を防ぐために、ある程度固定した活動内容や場面についても、常に見直すことも必要である。

他校へのアドバイス**キーワード『異年齢(異学年)交流』**

- ・準備や計画は大変だが、異年齢(異学年)での活動は、上学年児童にとっても下学年児童にとっても得られる効果が大きい活動である。また、学校の伝統や風土を引き継いでいくことにおいても、大きな役割を果たしている。また、学校や地域への愛着を育てることにもなっている。